



教会短信

2010年2月14日

No. 31

牧師 間瀬 善彦

今回は「お返し」ということについて考えてみたいと思います。人からお祝いをいただいた時、お返しをするというのは社会的な1つのマナーのようになっています。しかし、こうした物のやり取りに煩わしさを感じるのは、はたして私だけでしょうか。お祝いを贈ろうと心にかけてくださったことには、心から感謝を表わさなければなりません。また、贈ってくださった方の真心に対しては、感謝の心でお応えするのは、人としてのあり方でもあるでしょう。

では、何らかの理由でお返しのできない人はどうでしょうか。感謝の心がないと責めることができるのでしょうか。そうではないと思います。お返しのできない人の方が感謝の心が強いのではないのでしょうか。聖書（ルカ 14:12-14）では、施しをするときにはお返しのできない人、「貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人」に施しをなさいと教えています。なぜなら、施しを受けた人はお返しのできないので、施した人は幸いだということです。つまり、お返しのできない人のお返し（報い）は、人の心の内をすべてご存じの神が代わってしてくださるのです。

聖書に、「金持ちとラザロ」という話があります。金持ちは上等な服を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていました。この金持ちの門前には、ラザロという貧しい物乞いが横たわっていました。しかし、この金持ちは目もくれませんでした。やがて、この貧しい人も金持ちも死んで神のもとに召されました。そして、立場が逆転してしまいました。ラザロは神のもとで平安を与えられ、金持ちは苦しみを与えられました。「お前は生きていた間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもたえ苦しむのだ」（ルカ 16:25）。誤解があってはいけないのですが、ここで言われているのは、人生は善行をどれだけ積んだかによって報いがあるということではありません。どのような生き方をするのかということが大切なのです。この金持ちは、門前でラザロが横たわっているのを見て知っていたのですが、関わろうともしませんでした。お返しのできない人に施しをしようとも思いませんでした。その存在を無視していたのです。

あるドラマのせりふに印象深い言葉がありました。ある人が「人生は元を取るようになっていく」と言って、苦労ばかりしている友人を励ますのです。神はわたしたちに苦しみばかりを負わせるわけではありません。わたしたちが苦しみに真剣に向き合った分、その後十分な喜びを与えてくださるのです。これが、神がわたしたちに与えてくださる報いです。

「神は乗り越えられる試練しか与えない」（とあるクリスチャン的視点）

「神は乗り越えられる試練しか与えない」。これは昨年秋に反響を呼んだテレビドラマの中で、度々登場したセリフである。ストーリーは最新医療の現場で活躍する脳外科医が、突然江戸時代にタイムスリップしてしまうという SF もでありながら、時折登場する医学ウンチクや、化学考証、人間ドラマが絶妙で、私は毎週楽しみで仕方がなかった。現代の常識が全く通用しない環境の中で、上に述べたセリフを口にして自分を鼓舞しながら、真正面から困難に立ち向かっていく姿は、見る人の感動を誘うものがあった。

これによく似た言葉が聖書にはある。

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていただきます」（コリント第一 10 章 13 節）。

私は子どもの頃、アトピー性皮膚炎と喘息を患っていた。そのことで家族や周囲には色々と迷惑をかけてきた。慢性的に体中引っ搔くものだから洋服はいつも血の染みだらけだった。喘息の発作は朝起きてから、遊んでいるとき、食事のとき、寝床についてからも毎日突然やってきた。発作が起こると息苦しさと共に、胸の内側にまるで何匹もの蟻がわっと移動を始めるような、むず痒さが生じる。私は仕方無しに喉元やわき腹など見当違いのところを搔きむしっては、このもどかしい痒みを誤魔化していたものである。

これらは私なりに辛い体験であったし、悩んだ事もあったが、しかし、神の与えたもう試練などと大げさにして言うつもりは、もちろんない。要するに何を言いたいかというと、私などはたかがアトピーや喘息であっても、家族、友人、あるいは学校や病院などの助け（祈り）なしには、到底乗り越える事は出来なかったのだ、という事実である。

喘息は今ではすっかり影を潜め、あのもどかしい苦しさは記憶の中で次第に薄らいできている。アトピーも見た目にはほとんど分からない程に改善した。今や辛いことといえば四六時中体を引っ搔いてしまう事や、2ヶ月に一度2～3千円程度発生する治療費くらいである。この2～3千円という金額が多いか少ないかは人の感覚に任せるが、私の場合、財布から出す瞬間と、家計簿をつけるときに忌々しく思うくらいで、無くならなければその有難さも実感できないようなものである。いずれにせよ、苦しみと呼ぶほどのものではない。

その事を踏まえた上で、最後にもう一箇所聖書から引用したい。

「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」（マタイ福音書 6 章 8 節）。私は、神は苦しみをお与えにはなるかもしれないが、決して意味もなくお与えにはなら

ないと思っている。今にして思えば、病気は悪いことばかりではなかった。周囲の優しさ、家族の有難さを肌身で感じる事が出来た。あるいは病気に無理解な人が発する何気ない一言が、案外心に影を落とす、ということを知る事ができた。有難い事に、こうした体験を通して今の私は存在している。

冒頭で紹介したドラマの主人公も、「神は乗り越えられる試練しか与えない」と言って一人で困難に立ち向かっていったわけではない。必ず誰かが側にいて、絶えず支えていたからこそ、前向きに乗り越えていく事が出来たのである。私はドラマの主人公のように才能も人望もない、ただの弱い弱い人間である。しかし私を支えてくれる人は、確かにいる。苦しみを乗り越えた後には、喜びと感謝が残る。

願わくは、私も誰かの助けとなる事が出来ますように。

Y.N

剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

マタイ福音書 26章 52節

キリストを処刑するため捕まえに来た人々に対して、弟子が剣を抜いたとき、彼は剣を納めさせました。力に対して、力で対抗すれば、さらに激しい暴力に発展しがち。キリストは、究極的には神によって救済されるという確信に基づいて、無抵抗を貫きました。ちなみに逮捕後、彼は十字架につけられて墓に葬られましたが、その三日後に復活したと聖書には記録されています。インド独立運動の指導者ガンジーも聖書の精神に触発されて、弾圧に対し非暴力で運動を進め、国の独立を勝ち取りました。信念に基づいた非暴力は、かなり強力なのです。

(「聖書の品格」いのちのことば社 より引用)

イースター



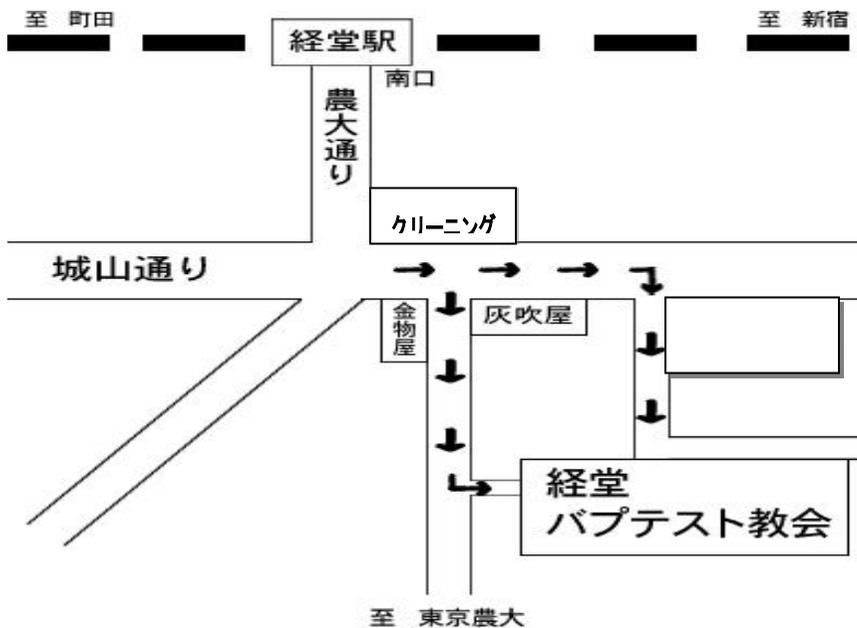
4月4日(日) イースター記念礼拝

午前10時30分～11時30分

どなたでもお気軽に礼拝にいらしてください。お待ちしております。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。